

皆様おはようございます。

主の復活の朝、イースターおめでとうございます!!

先週の水曜日、祈祷会にて私たちは2004年に映画館でロードショーされました「パッション」という映画を鑑賞いたしました。主のむごたらしい刑罰の数々を見まして、また、それを弟子たち、周囲の人たち、母マリアらがどのように見ていたかを見まして、思わず涙が出る思いがいたしました。そして木曜日の夜、ああペテロが主を否んだのかと考え、金曜日を迎えて、昼過ぎ、ああイエス様が十字架につかれた、3時、ああ日が暗くなり、ついにイエス様が息を引き取られた、そしてよみに降られ、墓にお入りになられたと考えつつ、昨晚を迎えました。そして今朝、朝早くまだ暗いうち、すでに墓から石が取り除けられ、主は復活されたと知り、主の、死のお苦しみは取り除かれ、主は勝利されたとかみしめながら、朝の光を浴びました。

弟子たちは慘憺たる状況でした。主の一番弟子は、即座に散り散りに逃げて行ってしまった弟子たちと違って大祭司の庭まで主を追っていったまでは良かったのですが、主がかねて告げられたとおり、鶏が鳴くまでに3度まで主を知らないと言ってしまいます。

女性たちは主の側にいました。

ヨハネ 19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。

マルコ 16:1 さて、安息日が終ったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。

16:2 そして週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行った。

主の復活の朝、その復活を初めて目の当たりにしたのは女性たちでした。

ローマの番兵たちに頼んで石を動かしてもらい、死臭を少しでも和らげるために香料を持参しました。

ヨハネ 19:38 その後、ユダヤ人をはばかって、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。

19:39 また、前に、夜、イエスのみもとに行つたニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。

19:40 彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた。

ヨハネ 19章では、ユダヤの最高法院の議員であったアリマタヤのヨセフはイエス様のために墓を用意し、遺体の取り卸しの許可を得、そしてニコデモも、没薬と沈香とをまぜたもの

を百斤(約 32.6 kg !)も持ってきていたわけですから、なお女性たちが香料を持っていくことは必要がなかったのかもしれません、安息日が終わるや否や、朝を待って、明るくなるのも待ちきれないで、主への熱い思いと捧げものを持って墓に行く女性たちの姿には胸が熱くなります。

1 さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。

2 そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行って、彼らに言った、「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。

ここにあります、「石がとりのけてあるのを見た」という、「とりのけてある」というギリシャ語の言葉は、「だれかが、主を墓から取り去りました」との、「取り去りました」との言葉と同じ言葉が使われています。

そこに番兵の姿もなく、石が取り除けられているという事は、何者かが主を墓から取り去ったものと理解することは容易いことであったに違いありません。

そのような状況では、石が無断で転がされ、取り除けられているという事も、遺体が取り去られるという事も、起こってほしくない不愉快な、困惑する出来事です。

しかし、この二つの「取りのけられた」という言葉は、喜ばしい主の勝利の出来事として起こっていたのです。

「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」という、慌てふためいて、ほとほと、心底理解できなくて困り果てている姿がここにはあります。しかし、この女性たちの態度と様子が正しいかどうかは、はっきりと、9 節に言い現わされてあります。

9 しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。

11 しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。

13 すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。

15 イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのでしたら、

どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。

女性たちはイエス様のお身体が見当たらず、途方に暮れていきました。しかし聖書の言葉は、「死人のうちからイエスがよみがえるべきこと」をはっきりと指し示していました。

「あなたはわたしを陰府に捨ておかれて、あなたの聖者に墓を見させられないからである。」
(詩篇 16:10)

「それゆえ彼らに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。」(エゼキエル 37:12-13)

女性たちの目撃証言を聞いた弟子たちはどうだったでしょうか。

- 3 そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかって行った。
- 4 ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着き、
- 5 そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかつた。
- 6 シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、
- 7 イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあつた。
- 8 すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいってきて、これを見て信じた。

ルカによる福音書ではこうあります。

- 24:8 そこで女たちはその言葉を思い出し、
24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。
24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。
24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

愚かな話、信じられないわざとのように信じなかつた弟子たちでしたが、ペテロとヨハネは、自分の目で確かめようと墓に走つたという事が記されてあります。

そこで見たのが、イエス様の遺体をくるんでいた亜麻布でした。頭を巻いていた以外の、身体を巻いていた亜麻布は、そのままそっくりおいてあり、頭を巻いていた布は離れた場所にくるめて置いてありました。8 節に、「すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいってきて、これを見て信じた。」とありますから、その亜麻布の様子は、誰かが人為的に巻いてあったのを切断したり、解きほぐしたりしたものではなくて、巻いたまま、そっくりと中身だけが抜けてしまったかのような状態であったということが分かります。そして体がすっぽりと抜けた後で、二三歩離れたところでイエス様が頭に巻いてあった布をご自分で採って、そのまま丸めておかれたと理解して、じっと様子を観察し、この福音書を書いたヨハネは、自分がイエス様の復活を信じたと書いていると思われます。

8 すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいってきて、これを見て信じた。

9 しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。

しかし、信じたと 8 節にあるその次の節、9 節には「しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。」という事が書いてあり、不思議な気がいたします。

何か不思議なことが起こっているから、この不思議なことは神様が起こされたことなのだと、漠然と信じていたにすぎなかつたという事なのでしょうか。しかし、聖書の言葉は、「イエスがよみがえるべきこと」をはっきりと指し示していました。

「あなたはわたしを陰府に捨ておかげず、あなたの聖者に墓を見させられないからである。」
(詩篇 16:10)

父なる神様は、イエス様の復活を通して、確かにイエス様は神様の聖者、聖なる者であり、陰府に捨ておかげず、墓を見せられないという預言のとおりにされました。イエス様こそが聖書の預言する聖者であり救い主メシアであることを、神様は主の復活を通してはっきりとお示しになられました。

「それゆえ彼らに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。」(エゼキエル 37:12-13)

神様は御言葉の通り、墓を開き、墓から御子を取り上げてくださり、その贖いによって、復活の御業によって、私たちの復活をも約束してくださいました。「わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなた

がたは、わたしが主であることを悟る。」私たちもやがて、復活させていただくとき、神様こそが主であることをありありと知らされる時が来るという事を知り、感謝しながらその時を待ち望みます。

「わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者よみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。」

(1コリント 15:51-52)

イエス様とともに、死人は朽ちないものとしてよみがえらされる、勝利のラッパの鳴り響くとき、私たちはイエス様による勝利を高らかにほめたたえるのです。

「死人のうちからイエスがよみがえるべき」、「死人のうちからイエスがよみがえるべき」、「死人のうちからイエスがよみがえるべき」。

使徒 2:22 イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。あなたがたがよく知っているとおり、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。

2:23 このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。

2:24 神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせたのである。イエスが死に支配されているはずはなかったからである。

(新改訳) 2:24 しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。

イエス様は贖いを成し遂げ、確かによみがえられました。もはや死人のうちにはおられません。取り除けられたという事は、困惑すべき出来事ではなくて、神様の勝利による出来事でした。私たちもまた、御言葉が語る通りに、「死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句」を悟り、どんなときにも主の勝利を信じて進みたいと願います。